

『ナツパ』じゃなくて  
『カツパ』!?

にやもし。

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

魔神「ドラゴンボールの世界に転生を望む、と？　よかろう、きさまを……ツパにしてやろう。あははは」

転生を望む人物は気がつけばカッパになっていた。

# 目次

『ナツパ』じゃなくて『カッパ』!?

1



『ナツパ』じゃなくて『カツパ』!?

とある人物がドラゴンボールの世界に転生することを望んだ。

暇を持て余せた魔神は願いを叶えた。

——いいだろう。お前を……ツパにしてやろう。あははは……。

よく聞き取れなかったが魔神に望みを言った人物は驚愕した。「ナツパ」だと!?  
……と。

それから手続きを終了させて転生を果たした後、その人物は己の姿を見て絶望した。

小動物のような、つぶらな瞳。

水掻きのついた細い手足。

緑色の肌。

頭には皿。

背中には甲羅。

「ナツパじゃなくてカツパじゃねえか!？」

地球とは違う水の豊富な惑星にて、カツパに転生したその人物は頭を抱えた。ちなみにメスである。

それから数年後。

カツパがいる惑星にフリーザ軍が襲来。その惑星の原住民であるカツパたちは応戦。防衛軍を指揮するのはあのメスカツパである。非道なフリーザ軍にカツパは激怒、赤いオーラを纏って次々と撃破していく。ザーボンさんにドドリアさん、ギニュー特戦隊も彼女一人で撃破、さらにフリーザ軍を壊滅させてみせた。これにはフリーザ様もびっくり、興味を持ったフリーザ様がお気に入り物の乗り物に乗って直々にやって来た。

「ほう、戦闘力18万ですか、素晴らしい。どうです？ 私の部下になってみませんか

「？」

「カーパ、カパカパ、カツパッパ」

「喋れない振りをしてムダですよ？ あなたたちが日本語を話せるのは知っているのですから」

「……この惑星に手を出さないというなら部下になろうツパ」

「よい判断です」

日本語という単語にフリーザ軍はおろか周囲のカツパたちは困惑したが、その後、何事もなかったかのようにメスカツパはフリーザ軍に加入。めきめきと頭角を現せ、気がつけばフリーザ様の側近の座に就いた。その数年後にフリーザによるサイヤ人虐殺計画が始まった。その計画の最終段階でカツパは惑星ベジータにてバーダックと出会う。

「フリーザの右腕のカツパか!？」

「カパカパ。その様子だと他のサイヤ人は信じなかったみたいだなツパ、フリーザによるサイヤ人虐殺を……。今ならフリーザに気づかれることなく家族を連れて逃亡できるツパよ?！」

「おれがフリーザを倒せばすむことだ!!」

宇宙へと飛んでいくバーダック。カッパはバーダックの妻であるギネとともに見送る。

フリーザが乗っている宇宙船を目指して一直線に空を駆けるバーダック。有象無象に沸いてくるフリーザ軍の兵士を蹴散らしながらもバーダックはフリーザと対面を果たしてみせた。

フリーザに向かって投げ放たれたバーダックのエネルギー弾。しかし、渾身の力を込めたその一撃はフリーザが生み出した巨大なエネルギー弾にあっけなく飲み込まれてしまい、フリーザ軍を巻き添え、バーダックを押ししながら、惑星ベジータに向かって落下していった。

「……お前ほどの男をこの場で死なすのは、見るに忍びないツパ」

戦闘服がぼろぼろに朽ちていき、自分の息子の未来を幻視するバーダック。彼は自分の背後から聞こえるカッパの声に思わず後ろを振り向く。そこには腕を組んで仁王立



ちするカップパの姿があつた。カップパはバーダックの肩を掴むとその場から消え失せた。

「ほーっほっほっほ!! きれいな花火ですよー!!」

惑星ベジータの消滅を見届けるフリーザの哄笑が響く。

---

「……………ここは?」

「地球だカパ。いずれ、お前の子がここに来るだろうツパ」

腰に布切れを巻いただけのバーダック。傍らにはギネがおり、心配そうにバーダックを見ていた。

「これ以上ここに留まるとフリーザに怪しまれるツパ。悪いがここで別れさせてもらおう

カパ」

言つて額に二本の指を当てるとカツパの姿がぶれて二人の前から消失、フリーザの宇宙船に現れる。カツパの目の前には心底愉快そうに笑みを浮かべる、お気に入りの乗り物に乗ったフリーザ様。

「ほーっほっほっほ。どこに行つてたんですか？ カツパさん？ まさかと思いますがサイヤ人を逃していたんじゃないでしょうね？」

「破壊神ビルスを敵に回すようなことをするつもりはないツパ。知り合いのサイヤ人に別れの挨拶をすましに行つただけだカパ」

「ふうむ、なるほど。あなたがなぜ破壊神を知っているのか知りませんが、あれの脅威を知っているならば、おバカなことはいらないでしょう。今後も期待していますよ？ それですが……」

フリーザ様はカツパにサイヤ人の王子であるベジータを保護したことを言い、カツパにベジータの監視を命じた。カツパはこれを承諾。カツパはこれ幸いとベジータを始め、生き残っているサイヤ人に教育を施すことにした。その傍ら瞬間移動で地球にいる

バーダックたちに顔を出して彼らの様子を窺う。

飛ばし子として飛ばされたカカロットは無事にバーダックの下に着き、すくすくと育ち、バーダックと一緒に亀仙人——無天老師から武道を学ぶ。

そんな彼らの姿を見てカッパは内心、收拾がつかなくなつた、やべえ……と戦々恐々しながらも、まあ、なるようになるだろ。……と気楽に考え、後先を考えずに行動する。

その結果。

ナメック星、激闘編。

完全体のフリーザ様。フリーザ様と対面するのはカカロット、悟飯、ベジータにちよつと老けたバーダック、さらにターレスとブロリーがいて、全員がもれなくスーパーサイヤ人化していた。

「ちくしょう！　ちくしょう！　ちくしょう！」

憤怒の表情のフリーザ様、思わず悪態を吐く。そんなフリーザ様にカッパは申し訳なさそうに片手で詫びを入れる。

「すまんツパ。正直やり過ぎたツパ。ゴメン」

間もなくしてフリーザ様は文字通り塵一つ残さず消滅、ひとまず宇宙は平和になったとき。めでたし、めでたし。